



# さい帯血バンク NOW

2013年8月15日発行

日本さい帯血バンクネットワーク

発行者：加藤俊一（会長）

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社ビル内

TEL 03-5777-2429 FAX 03-5777-2417

<http://www.j-cord.gr.jp/>

## 第71号

## 1万例記念でタイムカプセル 収納品は一般公募でも

わが国で実施されたさい帯血移植はまもなく1万例を突破します。この大きな記録を形に残して、次の世代にこの道程を伝えていくために、さい帯血バンク事業に関連した様々な品々と資料などをタイムカプセルに収納することになりました。

1万例を記念するタイムカプセルは、ステンレス製で完全密閉型です。収納スペースとしては容積で20リットル程度のもを予定しています。タイムカプセルというと、多くの場合は地中に埋蔵するケースも多いようですが、今回は設置場所の制約から埋蔵型ではなく展示型のタイムカプセルを予定しています。

血バンクが独自の判断により、未来へ伝えるメッセージとして、自由な発想で収納物の内容を決めることになっています。

そのほか、採取医療機関や移植医療機関からの収納依頼も受け付けます。さらに、さい帯血提供者（ドナー）やさい帯血移植体験者（レシピエント）からの個人的な収納希望も受け入れます。



写真はイメージです

い物品は2013年9月10日までに「日本さい帯血バンクネットワーク事務局・タイムカプセル係」にお送りください。

### 収納品は関係者参加で

タイムカプセルに収納する物品は、これまでのさい帯血バンク事業や、さい帯血移植に関連する基本的な資料は、日本さい帯血バンクネットワークがまとめて集めます。また、ネットワークに参加（過去を含む）しているさい帯

### 収納品公募と制限

爆発物などの危険品、化学変化などを起こすもの、電池など液体や水分を含むものは収納できません。また、容積には限りがあって、あまりサイズが大きなものは収納できません。

1万例記念タイムカプセルに収めた

### 記念イベントで「封印式」

9月28日午後TKP田町カンファレンスセンターで開催される「1万例突破記念イベント」で、タイムカプセルの封印式を行います。また、設置場所についてはこの記念イベントで正式発表することとしています。

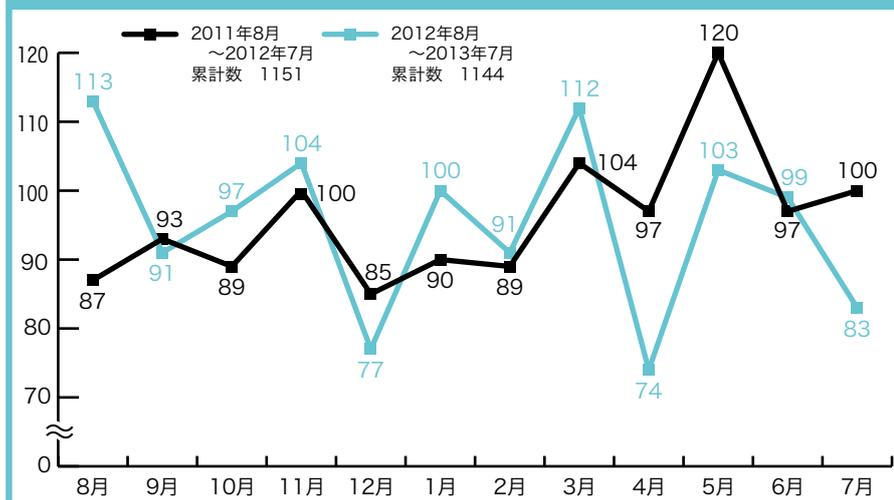
### オープン は移植2万例になって

さて、このタイムカプセルのオープン＝開封は？……さい帯血バンクを介したさい帯血移植症例数が2万例を突破した日を予定しています。このままのペースで進展していけば、8年後あたりになるのか？ それとも、もっと移植が増えて早い時期に達成されるのか？ いや、さい帯血を移植するよりもっと別の簡便な治療法が開発されて移植数が低下するのかも？

そのとき、このタイムカプセルに収納されていた品々は、その時の人々にどのように受け取られるのでしょうか。

### 非血縁間さい帯血移植状況 (2013年8月1日現在の速報値)

移植数 (累計) **9915** 公開数 **23724**



\*複数さい帯血移植数を換算しています。



# 赤ちゃんへのプレゼント 新しいスタイができました

日本さい帯血バンクネットワークでは、出産の際にさい帯血を提供してくれた赤ちゃんに、ご協力の記念としてささやかな品を差し上げていましたが、ここのところは財政難から久しく失礼をしていました。このたび、各さい帯血バンクの希望で、さい帯血バンクのマスコットキャラクター「きずなちゃん」をデザインしたスタイを再び作成



して、さい帯血採取にご協力をいただいたお母さまにお渡しできるようになりました。

以前に作ったものよりもサイズも長めになり、ピンクとイエローのストライプに、きずなちゃんのイラストもより大きくプリントされています。また、首まわりを止める面ファスナーも、赤ちゃんの肌にはより優しいものへと改

善されました。



### ●「さらなる飛躍へのステップ」

さい帯血移植 1 万例突破記念大会

■日時：2013年9月28日（土）午後1時から午後5時30分

■会場：TKP田町カンファレンスセンター

東京都港区芝5-29-14田町日エビル

TEL：03-3456-2750

※前号で開始時刻が午後2時となっていたようですが、正しくは午後1時です。

## 事業評価委員会現地調査報告 とり違い事例（近畿）とバッグ破損（兵庫）

日本さい帯血バンクネットワークの事業評価委員会では、毎年各さい帯血バンクへのサイトビジット（現地訪問調査）を実施していますが、昨年度に実施した現地調査総括報告書が6月の事業運営委員会で検討され、その中から次にあげる二つの不具合事例について、7月の事業運営委員会でより詳しい報告がありました。

ひとつは本誌70号で報告した保存さい帯血の取り違いの事例です。これは東海大学さい帯血バンクで起きた個別事例だと思われていましたが、同様な

事例が平成23年度の近畿さい帯血バンク（当時は京阪さい帯血バンク）でも起きていました。こちらは複数のさい帯血を同時に調製・保存したことが原因となっていました。明らかにヒューマンエラーのため、複数の人間でチェックするなど、既に改善策がとられています。

また兵庫さい帯血バンクでは、さい帯血保存用バッグの破損例が報告されました。これは平成23年度に188例の申込みがあったうちの7例について起きていたことがわかりました。なぜ液

体窒素での保存中にバッグが破損することになったのか、今のところ決定的な原因を解明するところには至っていません。他のさい帯血バンクでも同様のバッグを使用していますが、このような破損事例はありません。兵庫さい帯血バンクに引き続き検討を行うように指示が行われました。

いずれにしても、アクシデント、インシデントを各バンクで早期に情報共有し、安心、安全なさい帯血を患者さんに届けるよう努力してまいります。



すこやかに、幸せに。

明日への夢、描きたい。

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療器具を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。



ニプロ株式会社  
大阪市北区本庄西3丁目9番3号



# 元気になりました

連載第⑤回

## 分水嶺の輝き

——さい帯血ミニ移植で蘇った命

村上貴公

人生の3分の2を過ごしたサラリーマン生活を終え、第二の人生設計を思い描いていた2002年の秋（62歳）、治療法が確立されていない難病「骨髄異形成症候群（MDS）」と診断された。「そんな馬鹿な！」という強い否定から始まり、悶々とした絶望の淵より一条の光を見出した時「前向きに頑張れば、3年ほどは色々やりたい事ができるだろうか？……否、できる」そんな気がして、実現可能と思う「目標を設定」した。

- ①現役時代から温めていたヒマラヤトレッキング(アンナプルナ山群)
- ②亡き母の信仰に想いを馳せ、四国88ヶ所巡礼の旅
- ③戦争に駆り出され無念の死を遂げた父の慰霊巡拝の旅(ミャンマー)
- ④荒廃が進む里山林の手入れに、森林ボランティアとして参加
- ⑤経験と知識を生かせる職場で、可能ならば65歳まで仕事を続行
- ⑥日本の3000メートルを超える山の頂21座、すべて登頂

設定した目標の達成を目指してチャレンジを続けた登山が、障壁に向かっていく精神力と体力を強めることになり、結果的にこれが病気の進行にブレーキをかけてくれたのだが……やはり病は徐々に進行して、告知から5年目に緊急入院となった。しかし、希望をもって前向きに過ごしてきたこの5年ほどの間に、ミニ移植やさい帯血移植の医療技術が画期的な進歩をし、高齢者にとって治療法はないとされていたこの難病が、臨床研究段階の治療として手が届く位置にあるのでは……と思ひ至り、主治医の先生に治療の検討を申し出た時は67歳だった。

さい帯血による造血幹細胞ミニ移植により、消えかけた命に新たな命が吹き込まれ、多くの人々の温かい愛と励ましに助けられながら、過酷な治療に打ち克つことができた。そして、移植後5年半ほどが経過してなお、このよ

うに元気に生かされている。

親交のある老医師は「村上さん、これはまさに奇跡ですよ」と言い、信頼する友人は「備えられたところに奇跡は……舞い降りてくるのだね」としみじみ呟く。

自分を鼓舞するように立てた六つの目標は、乗鞍岳のみ果たすことができず大変心残りだったが、2010年の夏3026メートルの頂に登頂することが叶った。乗鞍岳は、日本列島の太平洋側と日本海側の水系を分ける境界の連続線である中央分水嶺の最高地点に頂をもつ。2700メートルの畳平で高所順応を兼ねて一泊、できれば頂上でご来光を、という行程で早朝に出発した。この時、移植後の血球は赤血球の回復がゆるやかでヘモグロビン値は何とか二桁の10.2g/dl。酸素濃度の薄い高所ゆえ、かなり息苦しい。

紺碧の空が徐々に白み始め、ゆっくり昇りはじめた太陽は雲海を黄金に染め、オレンジ色から真っ赤な炎のように変化し、雲の海を見事に燃えあがらせた。分水嶺は朝日に照らされ太平洋側は眩しく輝き、日本海側は重厚な濃



乗鞍岳頂上（2010.8.5）移植後2年5カ月（筆者は右）

紺の光を放っていた。雲海の彼方に聳える御嶽山は優しく微笑み、「不思議ないのち」に生かされ、ご来光の壮大なドラマに圧倒されている私に、天から託された一つの「使命」を示してくれた。

さい帯血を提供して下さったご両親と赤ちゃんに、心から感謝を込めてお礼申し上げます。元気な男の子だと聞かされました。本当に感謝です。ありがとうございます！！

この命を蘇らせて下さった主治医のアドバイスもあり、闘病の記録として一冊の書物『分水嶺の輝き“臍帯血ミニ移植で蘇った命”』にまとめ、自費出版しました。この印税収入はすべて兵庫さい帯血バンクに、感謝を込めて寄付させていただいております。

(兵庫県在住)

## 元気になりました 移植患者さんの手記大募集

本誌『さい帯血バンクNOW』では、さい帯血移植を受けられて、元気になった移植患者さんの手記を連載しています。移植から1年程度以上経過して、健康を回復された患者さんは、体験やメッセージを書いてみませんか。原稿は2000字程度にまとめて、写真やイラストなどともお送りください。投稿は郵送でもメールでもかまいません。また、いただいた原稿は本誌に掲載するほか、さい帯血バンクの広報活動で使わせていただくことがあります。どうぞふるって手記をお寄せください。

(送付先)

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3日本赤十字社ビル内

日本さい帯血バンクネットワーク「さい帯血バンクNOW」編集部宛

network-jimukyoku@j-cord.gr.jp



# 移植病院 訪問

## ②5 広島赤十字・原爆病院

### チーム医療の向上をめざして

広島赤十字病院は昭和14年に設立され、昭和63年の改築を期に隣接していた原爆病院と統合し、広島赤十字・原爆病院と名称を変え現在に至っています。原爆被爆者の健康管理と疾病の診断と治療にも力を注いでいる地域の中核病院です。造血幹細胞移植では同種移植数で（小児科を含め）年間50件前後で、その内さい帯血移植は15件ほどです。近年、移植源としてさい帯血を選択することは増加しており、さらなる移植数の増加も期待されます。今回は、浜本和子小児科部長、移植を担当されている岩戸康治輸血部長、青木紀子移植コーディネーター（看護師）にお話をうかがいました。

#### チームワークの良さが移植成績を

広島赤十字・原爆病院では、2011年10月から「移植コーディネーター（移植Co）」を配置して、患者さん個々に合わせたタイミングで移植ができるように、移植の準備などを進めています。疾患の多くは急性骨髄性白血病で、移植時年齢は14歳～71歳と幅広くなっています。患者さんのニーズや疾患の状態に応じて移植の準備ができることに岩戸部長は「いかに、安全に現実的に移植成績を維持できるための工夫ができるか。その工夫のひとつが、移植準備をタイムリーに行っている移植Coの存在だと思います」と、移植Coの存在の強みを話してくれました。骨髄バンクやさい帯血バンクの手続き、血縁ドナーさんのフォローアップ、骨髄採取の運搬など多忙な日々を送っている青木移植Coは「大変な時も、もちろんありますが、患者さんのために自分ができることをしっかりやっていきたい」と仕事のやりがいについて語ってくれました。実は青木さんは、岩戸部長の外來に通っていた患



者さんでした。病を克服し、病気とうまく付き合っていくながら仕事を続けている、青木さんの姿にパワーをいただきました。多くの患者さんだけでなく、医療者にもパワーを与えて移植チームをサポートしている姿が目につかびました。

者さんでした。病を克服し、病気とよく付き合っていくながら仕事を続けている、青木さんの姿にパワーをいただきました。多くの患者さんだけでなく、医療者にもパワーを与えて移植チームをサポートしている姿が目につかびました。

#### 子どもの成長を促すチーム医療を

「いろいろな人との関わりが、子どもの成長のためにはとても大事なことです」と浜本部長がやさしく語り始めました。乳児白血病や先天性免疫不全などは、生まれてから何かしらの感染症で病院を受診し、診断がつき次第、できるだけ早期にタイミングよく移植をすることが治癒につながる病気であると話してくれました。生後2カ月で移植をした事例もあるとのこと。壮絶です。医師や看護師だけではなく、薬剤師、理学療法士、食育といった面で栄養士、チャイルドライフスペシャリスト、さらに欠かせないボランティアの協力と、チーム一丸となって病気と向き合っている子どもやそのご家族をサポートする体制は大変心強さを感じました。また、院内学級もあって、先生たちも支えています。病気があってもなくても、子どもは日々成長していきます。病を治すだけではなく、子どもの成長のために、さまざまな方が関わることで、退院後できるだけスムーズに元の社会生活に戻れるよう配慮した



環境に目を奪われました。

#### 両科共同での長期フォローアップを

小児科では15年前、血液内科では10年前にさい帯血移植を受けた患者さんが、今でも定期的に外來通院しているそうです。神奈川臍帯血バンクと東海大学さい帯血バンクから提供を受けて移植をされたそうです。患者さんたちは、さい帯血の提供をうけられたことに本当に感謝をしていると岩戸部長が話してくれました。移植後は長期的な問題として二次がんの発生などがあります。また、小児期での移植は、不妊や成長障害などの晩期合併症の問題を抱えて生活していくこともあります。さまざまな状況に応じて対応していけるような、長期フォローアップ外來の夢を浜本部長が語っていただきました。地域に根付いている病院だからこそできる体制づくりを、多くの移植患者さんが期待していることでしょう。

#### ■善意のお気持ちに感謝します■

福岡県	聖マリア病院	血液内科様	100,000円
大阪府	福田博行様		20,000円
神奈川県	富岡礼子様		10,000円
東京都	廣谷栄一様		10,000円
東京都	松本博・智子様		10,000円
静岡県	豊田龍二様		10,000円
埼玉県	大寺信行様		9,000円
東京都	松本翔次郎様		5,000円
宮城県	(匿名)		5,000円
神奈川県	井上康久様		3,000円
	コモリアスナ様		2,200円